

問題は直接には、近代初期16-17世紀の広い意味でのイギリス史の展開の中で発生するといつてよい。すなわちイギリス王権によるブリティッシュ諸島全体の国家的統合、イギリス国教会派を国教とする宗教改革、大西洋方面への海外進出という3つの流れが、アイルランドとかがわらなかに生み出された。アイルランドは、国制上は別個の国で1800年までながら、実質的にはイギリスの植民地的地位に置かれ、その内部では一握りのプロテスタント(国教徒)=大地主=支配層と、圧倒的多数のカトリック=貧農=被支配層という極端分裂した階層社会が成立した。19世紀以降は、後者の民族主義的な運動がイギリス本国を悩ませ、かく、ただし、アイルランドの中で、アイルランドの東部6州だけは、スコットランドからの「長老派農民層の大量移民によって、前記のような階層構造が成立せず、そのために「連合王国内にとどまる」とともに、いまなお多数派プロテスタントと少数派カトリックとの対立が完全には解決されていない。山本アイルランド征服、北アイルランド紛争

アイン・アリー Ayn Ali 生没年不詳。オスマン朝の財務官。1607年、「ティマール制に関する表」とカーヌーンからなる小論を著し、「アムスト1世」に献呈した。09年には同庫から支払われる俸給の表とカーヌーンをまとめた。これらは17世紀初頭のオスマン朝制度史の基本史料。鈴木薫

アイン・ジャールートの戦い 'Ayn Jalūt 1260年9月、パレスティナのアイン・ジャールートにおけるモンゴルの遠征軍とバイバルスらに率いられたマムルーク朝軍との戦い。マムルーク朝が勝って、同王朝のエジプト、シリア支配が確定した。(長谷部)

アインシュタイン Albert Einstein 1879-1955 ドイツ生まれの理論物理学者。1916年に「ニュートン以来の自然観をくつがえす一般相対性理論を完成した。1914年以降ベルリンのプロイセン科学アカデミーで研究を続けていたが、ユダヤ系だったので33年ナチ政権成立直後にドイツ市民権を放棄して渡米、プリンストン高等研究所に落ち着いた。39年、「ナチスの原爆開発計画について」、ローズヴェルトに助言したが、「マンハッタン計画」には関与せず、戦後は反核・平和運動に熱心に取り組んだ。21年ノーベル物理学賞受賞。安野→ラッセル・アインシュタイン宣言

アイン・ダーラの戦い 'Ayn Dāra 1711年、レバノン山岳中部のアイン・ダーラで主にイスラム教・ドルズ派の各名家派間間で発生した戦い。反オスマン派が親オスマン派をくだして駆逐。反オスマン派の「シハブ」家の権力基盤が固まり、キリスト教・マロン派勢力が相対的に伸長したため、レバノンの自立化傾向が定着した。黒木

アインハルトゥス Einhardus 770? 840 「フラン

ク王国の文人、歴史家。「カロリング・ルネサンス」の代表者。「アルクインのあとをうけて」カール大帝の第一助言者となり、アーヘン宮殿の建設にも尽力。「ルイ1世」のもとでも重用され、のちに「カール大帝伝」を著した。日置

アヴァクム Petrovich Avvakum 1620-82 ロシアの長司祭でロシア正教会分離派「ラスコーリニキ」の指導者。地方の村司祭を経て、モスクワでの教会改革の運動に参加し、総主教ニコンによるギリシアを範とする典礼改革に強く反対して、教会を離れた。アヴァクムと彼の同調者たちはのちに「教会分離派」とよばれ、厳しい弾圧を受けた。アヴァクムはシベリアに流刑にされた後、北部に追放され、同地で火刑に処された。流刑中に執筆した「自伝」(1672)は17世紀ロシア文学の傑作とされる。(主肥)

アヴァ朝 Ava 1368-1555 上ビルマに成立したタイ系・シャン人の王朝。「ハガン朝」崩壊後シャン人が各地に有力になったが、そのなかで、ダドーミンピャーが上ビルマの「アヴァ」に王朝を開いた。下ビルマの「ベグー」や「タウングー」の勢力と争い、16世紀に「タウングー朝」に併合された。(奥平)

アヴァール Avar 6-9世紀に中部・東部ヨーロッパで活躍した民族。モンゴル系かトルコ系を基調とする遊牧民と思われる。もともと中央アジア北部の草原地帯にいたが、「突厥」の圧迫のもとに西方に移動。突厥に滅ぼされた「柔然」と結びつける説もある。6世紀後半にはハヤン・ハーンの指導のもと「ビザンツ帝国」や「フランク王国」に並ぶ勢力となり、南ロシアからハンガリーまでを支配。鎧がをヨーロッパにもたらした。8世紀末に「フランク」・「ブルガール」・「スラヴ」の攻撃を受け衰退。林俊→モラヴィア王国

アヴィケンナ Avicenna →イブン・シーナー

アヴィス朝 Avis 1385-1580 ポルトガルの第2王朝。「ジョアン1世」により創設され、1580年エンリケの死によって終焉。11回は「フェリペ2世」のスペインに併合される。その2世紀間はポルトガルが「大航海時代」をリードした時期に相当する。(金七)

アヴィニオン教皇時代 Papauté d'Avignon 英・Avignon Papacy 英・アヴィニオンの幽囚とも。クレメンス5世以下7人のフランス人教皇が1309-77年、フランス王権の圧力下、教皇庁を南フランスのアヴィニオンに置いたことをさす。これが前6世紀のヘブライ人の「バビロン捕囚」になぞらえられ「ペトラルカ」はアヴィニオンを悪徳あふれる「新たなバビロン」として非難した。「ルター」もアヴィニオン教皇庁時代から中世教会の衰退が始まったと論じた。現在では、この時代に教会機構が整備されたことなどが強調されている。(大嶋→アナーニ事件、教会分裂)

アヴィニオンの幽囚 英・Avignonese Captivity 英 →アヴィニオン教皇時代

アヴェスタ Avestā 英・ゾロアスター教の聖典。成立は、前1千年紀と推定されるが、一筆に完成し

たものではなく、年代には幅がかなりある。1で伝承されてきたが、「サーサーン朝」に現存のに文字化された。イスラム時代に全体の約4分の3が散逸。現存の「アヴェスタ」は、祭儀の際に誦される「ヤスナ」、神々への讃歌である「ヤシナ」、除魔書「ヴィーデーヴダード」、その他の小から構成されている。ヤスナは、ゾロアスター自身の作とされる「ガーサー」を含む。春田

アウエルシュテットの戦い Auerstädt →イェーナの戦い

アヴェロエス Averroës →イブン・ルシード

アヴェンティノ・ブロック Aventino Blocco 英 →マッテオッティ暗殺事件

アヴォガドロ Amedeo Avogadro 1776-1856 イタリアの物理学者、化学者。1811年に「同じ体積の気体は、気体の種類にかかわらず、等温、等圧の条件のもとでは、同じ数の分子を持つ」という、アヴォガドロの法則をうち立て、近代的な分子概念を確立したが、広く認められたのは50年代になってからのことであった。北村暁

アウグスティヌス Aurelius Augustinus 354-430 初期の西方キリスト教会最大の「教父」。北アフリカのヒッポレギウス司教。北アフリカのタガステで生まれ、カルタゴで教育を受けたのち、ローマで修辞学の教師となる。青年時代に「マニ教」に傾倒し、「新プラトン主義」を経て、387年「アンブロシウス」から洗礼を受け、キリスト教徒となる。主著「告白」「神の国」(主肥→カトリック教会)

アウグスティヌス(カンタベリー) Augustine of Canterbury ? 604 初代カンタベリー大司教。教皇「グレゴリウス1世」の命によりアングロ・サクソン人をカトリックに改宗させるため、597年ケンタに上陸。エゼルベルト王らの改宗に成功し、カンタベリーに教会建立を許された。ケルト系教会との差異解消に努力。朝吉

アウグストゥス Augustus 前63-後14 「ローマ帝国」の初代皇帝。在位前27-後14。「カエサル」の孫の子で、本名はガイウス・オクタウィウス。カエサル暗殺後、その養子となり、オクタウィアヌスと改名。前43年に「アントニウス」と「レピドゥス」とともに第2回「三頭政治」を始め、反カエサル派を打倒。さらにレピドゥス失脚後にアントニウスと対立すると帝国西方の諸地域を支持基盤とし、エジプト女王クレオパトラと結んだアントニウスをついに前31年の「アクティウムの海戦」で破って、帝国の最高実力者となった。前27年非常時の大権を返還した彼は、元老院から改めて数多くの属州の統治を委ねられ、アウグストゥス(尊厳なる者)の尊称を与えられて、「プリンキパトゥス(元首政)」とよばれる政治体制を創始した。文武両面にわたる彼の強大な権力は子孫に継承され、ここにローマ国家は帝政に入ることになった。アウグストゥスはオクタウィアヌス個人の名であるとともに、皇帝の称号として後世に受け継がれた。(南川)

アウクスブルクの和議 Augsburger Religions-

friede 英・カトリックと「プロテスタント」の対立を收拾するため、1555年アウクスブルク帝国議会で結ばれた協定。「ルター派」が公認され、帝国「諸侯」や「帝国都市」は宗教上の選択と決定の権限を獲得した。(高木)

アウシュヴィッツ Oświęcim 英・Auschwitz 英・ポーランド南部の小都市。1940年「ナチ」ドイツにより「強制収容所」が設けられ、ヨーロッパ各地のナチ占領地から連行された「ユダヤ人」や捕虜などが過酷な強制労働のすえ、ガス室などで虐殺された。犠牲者は約400万人に及んだといわれる。早坂→ユダヤ人迫害

アウスグライヒ Ausgleich 英・1867年に「ハプスブルク帝国」内のオーストリアとハンガリーの間で締結された協定。原語の意味は「妥協」。普墺戦争で敗北した帝国が支配体制の再編をはかるため、ハンガリーに同等の地位を与えた。オーストリア帝国とハンガリー王国は内政・外交・財政について共通省を設置した。君主はオーストリアでは皇帝、ハンガリーでは国王として同君連合の形をとった。これを「二重制」という。(小沢→「二重帝国」)

アウステルリッツの戦い Austerlitz 三帝会戦とも。1805年12月2日、「ナポレオン1世」のフランス軍がオーストリア、ロシア連合軍をアウステルリッツ(現チェコ東部ブルノ付近)で破った戦闘。23日プレスブルク(現「ブラチスラヴァ」)で講和が成立。第3回「対仏大同盟」は崩壊した。(清水正)

アウストラシア Austrasia 東王国の意。「メロヴィング朝」・フランク王国の分国。首都は「メス」。アレマンネン、「バイエルン」、ライン地方の他にフランス中部のオーヴェルニュ地方なども含む。カロリング家はこの分国の実力者。「宮宰」一門の出身であった。(佐藤彰一→ヒピン、カロリング朝)

アウストラロピテクス Australopithecus 英・南アフリカ共和国、東アフリカ、エチオピアの、「更新世」初期およびそれ以前(約400万-150万年前)の地層から発掘された「猿」の一群。属名は南の猿人猿を意味する。1924年に南アフリカで発見されたが注目されず、59年にリーキー夫妻がアウストラロピテクスに属すジンジャーントロブスをオールドヴァイで石器とともに発掘して脚光を浴びた。頭蓋骨や顎や歯列が人間に似ていて、直立二足で歩行し、「道具」(礫石器)を作ることから最古の「人類」とされ、アフリカが人類発祥の地とみなされるようになった。(松野→オールドヴァイ文化)

アウトアルキー Autarkie 英 →自給自足経済

アウディエンシア Audiencia 英 →もととスペインの「カスティーリヤ」王国にあった巡回裁判所。1511年にスペイン領アメリカに導入され、植民地時代を通じてメキシコ市、リマ市など、「副王領」の重要な11都市に設置された。植民地では19世紀初

角川 世界史 辭典

雄稔之一明吾吉武也
正 汪彰昌信三 謹
川北 谷藤橋塚井 川部
西川小佐高南安湯阿

編

角川書店